

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2025 年 12 月

第 140 号

主な予定

12 月 28 日 (日)

10:00～

こんぶくろ水の行方ウォーキング

13:00～15:00

忘年会

きのこ観察会に参加して

千葉大学教育学部 2 年 西崎 友

10 月 19 日、日曜日、日ごとに秋の深まりを感じられる中、こんぶくろ池自然博物公園で開催された「キノコ観察会」に参加しました。当日は講師として小泉敬彦先生、根田仁先生をお迎えし、さらに東京大学で菌類を研究する大学院生お二人にもご協力いただきました。子どもを含む 32 名の参加者が集まり、公園内のキノコの調査と観察を行いました。

私自身、キノコの知識はほとんどなく、普段の生活で目にするのはスーパーの食用キノコか、道ばたに生えている名前の分からないキノコ程度でした。しかし今回の観察会ではさまざまな種類のキノコに出会い、多くの学びを得ることができました。また、教育を専攻している立場として、自然の中での活動が子どもたちにとってどれほど有意義な時間となるのかを、参加者の姿を通して強く実感する機会にもなりました。

観察会では、私がこれまで見たことのない形や生態を持つキノコが次々と見つかりました。典型的な「かさと軸」の形をしたキノコもあれば、言われなければキノコだと分からないようなユニークな姿のものも見ることができました。なかでも印象に残ったのは「ツチグリ」という種類のキノコです。公園では「エリマキツチグリ」を観察することができましたが、花びらのようにかさが開く独特の姿は、私が思い描いていたキノコのイメージとはまったく異なるものでした。日本各地に分布しているため、実はこれまでもどこかで目にしていたのかもしれませんが、今回名前と姿が一致したことで、キノコの世界の奥深さを改めて感じました。

もう一つ印象に残ったのは、「ノウタケ」と呼ばれるキノコです。クリームパンのような丸い形で、公園内では数多く見つかりました。普段キノコを意識して歩いたことがなかったため、これまで見た記憶がなかったのですが、今回あらためて注意して探すと次々と見つかり、森の中にはこんなに多くのキノコが潜んでいるのかと驚かされました。成熟したノウタケは、かさの部分を軽くたたくと胞子が煙のように舞い上がります。この不思議な現象に、参加した子どもたちも目を輝かせて観察していました。また、観察会開始直後に見つかった「ツマミタケ」は独特の香り



を持ち、ぜひ読者の皆さんにも一度嗅いでみてほしいほど印象的でした。

観察会の終盤には、参加者全員が採取したキノコを持ち寄り、講師の先生方から種類や特徴について丁寧な解説をいただきました。初めて知ることばかりで、参加者の方々の表情からもキノコの世界への興味が広がっていく様子を感じ取れました。また、子どもたちは大人より目線が低いため、小さなキノコを次々と発見してくれました。大人が見落としてしまう場所でも、子どもたちは新しい発見をすることができ、子どもならではの感性の豊かさと自然体験の大切さを改めて考えるきっかけになりました。

今回のキノコ観察会を通して、専門家の方々の話を聞きながら自然の中を歩くことで、普段は見過ごしてしまう生き物の存在に気づくことができました。子どもたちにとっても、先生方の話を聞いたり、自分で見つけたキノコを確かめたりする体験は、自然や環境への興味を育てる貴重な時間になったのを感じました。私自身も森の奥深さと、そこに広がる多様な命の営みに触れ、この公園での観察活動の意義をあらためて感じました。



千葉大学理学部生物学科1年 中山 あかり

こんぶくろ池の NPO の活動に参加させていただいている、千葉大学理学部の中山あかりです。10月はこの観察会に参加させていただきました。

活動を通してきのこ観察会以外の会にも参加させていただいたので他と比較して感じたことがありました。夜の昆虫観察会やクモ観察会がありましたが、きのこ観察会は知識を持った方の参加が一番多かったように感じます。講師の方に限らず研究の一環として参加していただいた方々もいて、自然な教え合いが発生していたように思いました。実物を見て解説をつけてもらえるのは子どもたちにとって良い経験となると思います。実際私も勉強になりました。また、マイクを使うことで講師の方の負担が少なく声が届いていました。営利目的の活動ではないからこそ負担を減らし効果を増すなど、効率化が重要だと感じました。

きのこ観察会といってもカビや菌根菌など菌界の生物を広く取り扱っていました。菌界の生物はその影響の大きさの割に目に見えて実感しにくいいため、年齢の低い子たちにとっては理解が難しいこと



もあったかと思います。しかしその時に分からなくても聞いたことは後の理解や発見につながるでしょう。私も教授や大学院の方の話をかみ砕いて参加者に話すなどできるようになりたいと感じました。

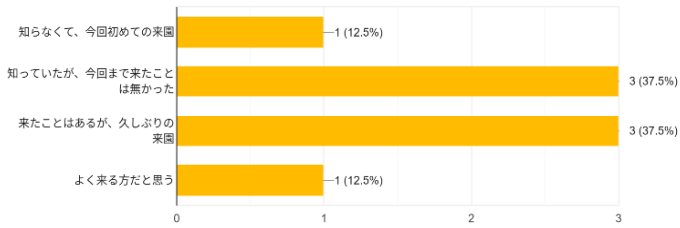
最後に西崎さんと一緒に採取したきのこを RNA シーケンサーにかけるためのお手伝いをさせていただきました。環境や種の観測の場所としてのこんぶくろ池もとても大切だと認識することができ、様々な側面を持つ観測会は非常に効果的なイベントでした。

2025年こんぶくろきのご観察会記録							
no.	種名	学名	科	no.	種名	学名	科
1	アセタケの仲間1	<i>Inocybe</i> sp.1	Inocybaceae	34	イッポンシメジの仲間1	<i>Entoloma</i> sp.	Entolomataceae
2	アセタケの仲間2	<i>Inocybe</i> sp.2	Inocybaceae	35	イッポンシメジの仲間2	<i>Entoloma</i> sp.	Entolomataceae
3	コキイロウラベニタケ	<i>Entoloma atrum</i>	Entolomataceae	36	ツマミタケ	<i>Lysurus mokusin</i>	Phallaceae
4	ツエタケの仲間	<i>Oudemansiella</i> sp.	Physalacriaceae	37	ノウタケ	<i>Calvatia crniiformis</i>	Lycoperdaceae
5	チチタケの仲間3	<i>Lactarius</i> sp.	Russulaceae	38	マンネンタケ	<i>Ganoderma lucidum</i>	Ganodermaceae
6	キチャハツ	<i>Russula grata</i>	Russulaceae	39	ベッコウタケ	<i>Perenniporia fraxinea</i>	Polyporaceae
7	ユキラッパタケ	<i>Clitocybe trogioides</i>	Clitocybaceae	40	ウチワタケ	<i>Microporus affinis</i>	Polyporaceae
8	チチタケの仲間1	<i>Lactarius</i> sp.	Russulaceae	41	ヤケイロタケ	<i>Bjerkandera adusta</i>	Phanerochaetaceae
9	チチタケの仲間2	<i>Lactarius</i> sp.	Russulaceae	42	ネンドタケ	<i>Fuscoporia gilva</i>	Hymenochaetaceae
10	ハラタケの仲間2		Agaricaceae	43	ハカワラタケ	<i>Trichaptum biforme</i>	Hirschioporaceae
11	ハラタケの仲間1		Agaricaceae	44	ハウネンタケ	<i>Abundisporus pubertaris</i>	Polyporaceae
12	ハラタケの仲間3		Agaricaceae	45	アラゲキクラゲ	<i>Auricularia cornea</i>	Auriculariaceae
13	ハラタケの仲間4		Agaricaceae	46	-	<i>Tubercularia lateritia</i>	Nectriaceae
14	アイバカラハツモドキ	<i>Lactarius</i> sp.	Russulaceae	47	シクイタケ	<i>Antrodia gypsea</i>	Seccheriaceae
15	ニガクリタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i>	Strophariaceae	48	-	<i>Sepedonium</i> sp.	Hypocreaceae
16	ナラタケ	<i>Armillaria mellea</i>	Physalacriaceae	49	カミウロコタケ	<i>Porostereum crassum</i>	Phanerochaetaceae
17	アカキツネガサ	<i>Lecoagaricus aspera</i>	Agaricaceae	50	ヒイロハリタケ	<i>Hydnophlebia chrysorhiza</i>	Meruliaceae
18	ザラミノシメジの仲間	<i>Melanoleuca</i> sp.	Tricholomaraceae	51	ネンドタケモドキ	<i>Fuscoporia setifera</i>	Hymenochaetaceae
19	ヒビワレシロハツ	<i>Russula alboareolata</i>	Russulaceae	52	ヒイロタケ	<i>Pycnoporus coccineus</i>	Polyporaceae
20	キノメチャワンタケ	<i>Peziza succosa</i>	Pezizaceae	53	チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>	Stereaceae
21	チャダイゴケの仲間	<i>Cyathus</i> sp.	Nidulariaceae	54	ハチノスタケ	<i>Neofavolus alveolaris</i>	Polyporaceae
22	ハイイロイタチタケ	<i>Psathyrella cineraria</i>	Psathyrellaceae	55	コフキサルノコシカケ	<i>Ganoderma applanatum</i>	Ganodermaceae
23	ドクツルタケの仲間	<i>Amanita</i> sp.	Amanitaceae	56	スジウチワタケモドキ	<i>Polyporus grammoccephalus</i>	Polyporaceae
24	ヒメツチグリの仲間	<i>Geastrum</i> sp.	Geastraceae	57	ツノフノリタケ	<i>Calocera cornea</i>	Dacrymycetaceae
25	エリマキツチグリ	<i>Geastrum tripex</i>	Geastraceae	58	カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i>	Polyporaceae
26	ハリガネオチバタケ	<i>Marasmius siccus</i>	Marasmiaceae	59	オオゴムタケ	<i>Trichaleurina tenuispora</i>	Pyrenomataceae
27	スギエダタケ	<i>Strobilurus ohshimae</i>	Physalacriaceae	60	ニクハリタケ	<i>Steccherinum ochraceum</i>	Steccherinaceae
28	ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i>	Lycoperdaceae	61	-	<i>Sphaerulina azaleae</i>	Mycosphaerellaceae
29	サクラタケの仲間	<i>Mycena</i> sp.	Mycenaceae	62	-	<i>Hypocrea</i> sp.	Hypocreaceae
30	ヒメカバイロタケモドキ	<i>Xeromphalina curtipes</i>	Mycenaceae	63	-	<i>Haplotrichum</i> sp.	Botryobasidiaceae
31	アマタケ	<i>Collybioides confluent</i>	Clitocybaceae	64	ハウロクタケ	<i>Daedalea dickinsii</i>	Fomitopsidaceae
32	ハウライタケの仲間	<i>Marasmius</i> sp.	Marasmiaceae	65	クジラタケ	<i>Trametes orientalis</i>	Polyporaceae
33	クリノイガワンタケ	<i>Lanzia ehinophila</i>	Lanziaceae	66	-	<i>Fibroporia radiculosa</i>	Fibroporiaceae

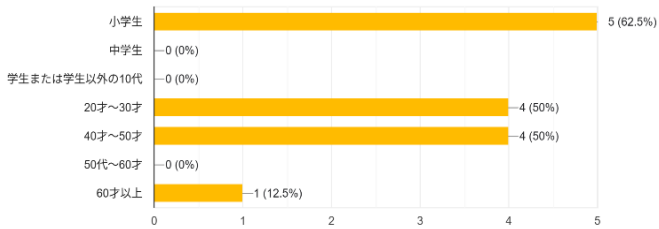


参加者の感想（回答数 8） 14 組参加

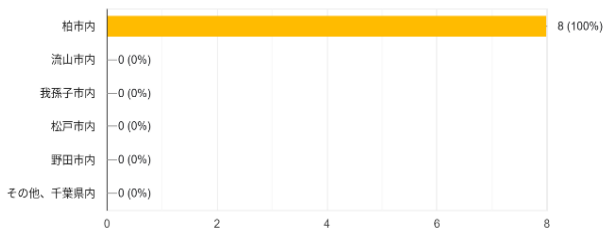
こんぶくろ池自然博物館への来園は？
8 件の回答



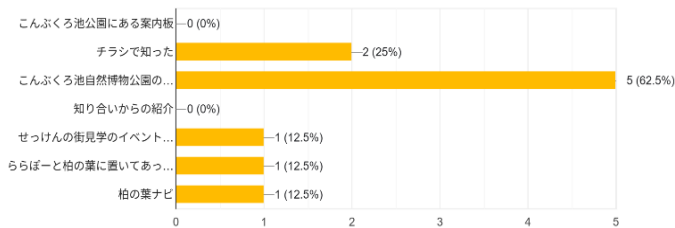
参加者の年齢を教えてください（ご家族の場合複数回答）
8 件の回答



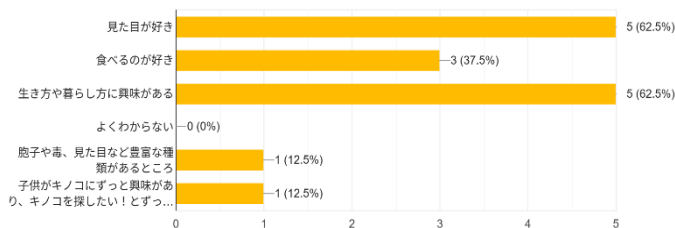
居住地を教えてください
8 件の回答



質問：きのこ観察会を何で知りましたか？
8 件の回答



あなたにとって、きのこの魅力は？
8 件の回答



・ 今まで見たことのないきのこを観察できて、より興味が沸きました。

・ 今まで見過していた足元のきのこですが、参加したお子さんが直ぐに見つけてくれ、私も段々目が慣れてきたのか見つけることができ、こんなにも沢山の種類のきのこがある事が分かり、とても楽しかったです。又がん治療薬としても利用されていると聞き、更にきのこに興味が増えました。大変お世話になり、ありがとうございました。

・ きのこの多様性に驚きました。思っていたより自由にきのこを探し歩くことができ、楽しかったです。小さな子もたくさんの知識があって、見つけるのが上手でびっくりしました。並べた時に他の方々の採られたきのこが見られ、先生方の分かりやすい解説も聞けて、大変勉強になりました。また、保護活動を知ることができたのも良かったです。ありがとうございました。

・ 子どもたちが楽しんでいました。普段は生えてると思うだけで気にしたことがなかったのでいろんなキノコに驚きました。

・ 想像以上にたくさんあったことに驚いた。触って胞子を飛ばせたのが楽しかった。図鑑のきのこを実際に目で見て触れて楽しかった。

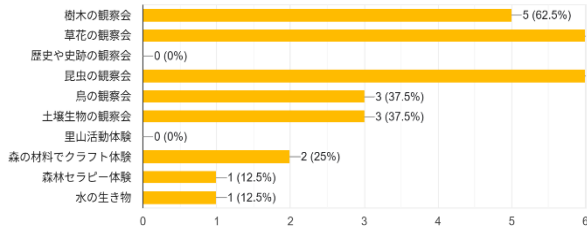
・ 普段あまり意識していないですが、よく見るとたくさんのきのこを発見できて親子とも楽しく観察会に参加できました。また参加したいです

・ スタッフさんがとても優しく、一緒に楽しんでいるのが感じられてアットホームな感じがとても良かったです。

・ 先生方の説明も丁寧でわかりやすく、面白かったです。子供たちは観察会のあと、早速近くの公園でキノコ探しをするなど、キノコに興味をひかれたようでした。次回もあればまた参加したいです！

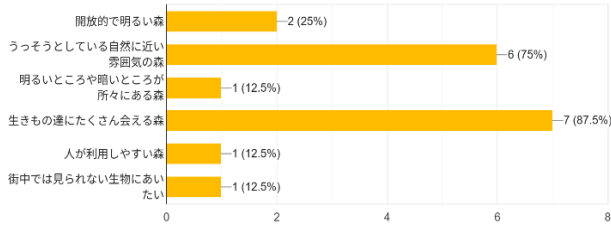
こんぶくろ池で参加してみたい観察会や体験は？

8 件の回答



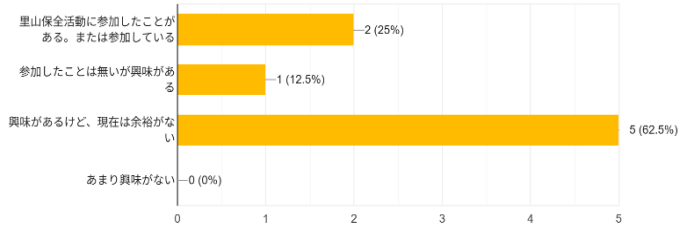
こんぶくろ池の森がどんな森だと嬉しいですか？

8 件の回答



森の里山保全活動について

8 件の回答



・キノコを自分で見つけて、手に取れたことに子供はとても喜んでいました。家に帰り道や着いたあとも図鑑を見て「これ見つけたね～」と話してくれました。スタッフの方にも丁寧に子供に対応していただき、子供も打ち解けて話しかけており本当に楽しそうでした。ありがとうございます。また来年もぜひ申し込んでみようと思います。



3月2日（日）こんぶくろ池保全活動報告会から ナラ枯れの被害木調査と落葉広葉樹の育成 その2

Ⅲ 落葉広葉樹の育成

ナラ枯れ被害木伐採跡地の藪化防止と、森の若返りを目的に 2020 年度から次の内容で落葉広葉樹の育成を開始している。

1. 園内に自生する幼木の保護

林床のササを手刈りすると多数の幼木が出現し、切断された茎から伸長した幼木が各所で見られる（図7）。これまでは林床で刈払い機による刈り取りを繰り返してきた。今後は、高木層の老齢化、低木層にササばかりが繁茂する状況に対応するために、今年度は、図8の範囲で林床の手刈りを順次試行する予定であった。しかし今年はアズマネザサの繁茂が激しく、特にナラ枯れ被害木伐採跡やそれに伴う重機の進入後に開けた場所で藪化が急速に進行し、手刈りに入れなほどの区域も生じた。そこで、手刈りをしながら幼木に印を付け、その印を避けて機械刈りを行う方法に変えて林床のササ刈りを実施している。順次ササ刈りを行うエリアは、これまで通り毎年でなく3～4年に1度の実施を想定している。



図7 切断された
茎から伸長したサ
シヨウ

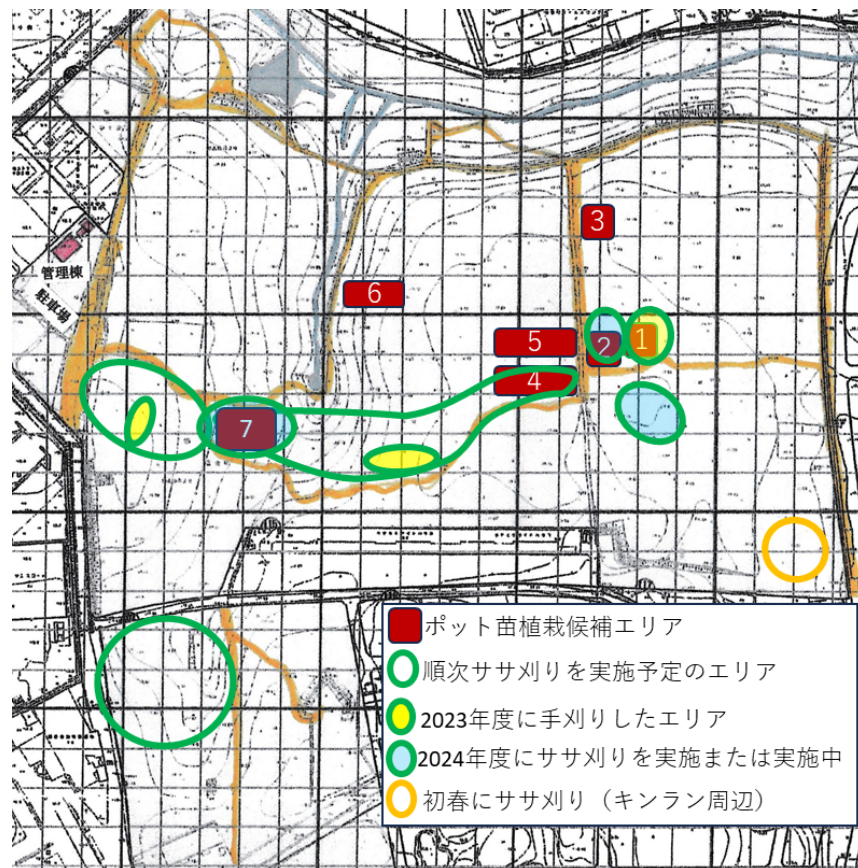


図8 ポット苗植栽候補地と林床のササ刈り実施箇所
(湿地での手刈り、草地維持の除草等のエリアはこの図に記載していない)

2. 園内で採取した種子の播種

今年度は園内のクリを集めプランターへ播種。

3. 園路等に生えた幼木の保護

園路や野馬土手での除草前に実生を採集しポットに植え育成している。昨年度は、東側園路から多数のイヌシデの実生を採集した。今年度は採集していない。

4. ポット苗の育成

育成の手順【10、11月】上記2はプランターへ播種。3はポットへ植え付け⇒【3月頃】2をプランターからポットへ植え替える。3は用土の補充⇒【梅雨明け頃まで】管理棟前で適宜水やりをしながら育成⇒【梅雨明け頃】ポット苗を地金堀岸の木陰に移動。水やりは行わない。⇒【4月頃】ポットへ用土を補充

ポット苗の数 2023年度は約150個。2024年度に約300個増え、現在は500個弱（表2）

生育状況 2024年12月に樹高を測定したところ、地金堀の岸で生育するポット苗のうち、樹高が最も高いクヌギの幼木が約60cm、イヌシデの幼木が約75cm。一方で、2023年5月にポットから中央5へ試験植栽した約60cmのコナラ幼木は周囲をササ刈りしながら育成し、約115cmまで成長している。

種	本数
クヌギ	212
イヌシデ	122
コナラ	88
その他	52
計	474

表2 ポット苗概数

※ポット苗の育成に使用する用土

園内で落葉広葉樹が生育する区域から団粒状の土壌を採集して使用している。



図9 地金堀脇から管理棟前に移動させたポット苗（梅雨明け頃に地金堀脇へ移動させる予定）

5. 今後の予定

- ① ポット苗を地金堀脇に置くと適度な緑陰に恵まれ夏の水やりを行わなくてもほぼ枯れが生じなかった。しかし、2023年に中央5へ試験植栽した苗に比べて成長が遅い。ポット苗の成長を促すために、春季から梅雨明けまでは管理棟前の日当たりが良い場所で育てることを試みている。2025年2月に生育が遅いポット苗約200を地金堀岸から管理棟前へ移動させた（図9）。今後もポット苗の生育環境を検討してゆきたい。
- ② 2023年5月に中央5へ試験植栽した苗は、地金堀岸に比べて成長が速かったが、周囲のササ刈りが必要となった。今後は、ポット苗が約1m50cmを越えてから地面に植え付ける予定である。

上田 真佐江（文責）

令和七年秋季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

いのこづち袖にズボンに模様付け
 秋の雲ゆるり流れて深呼吸
 やわらかな日よりと土に感謝する
 立冬や夕餉に高嶺のコメの雪
 テッペンにアオサギー羽威風堂々
 九月末（すえ）ツクツクハウシひとり啼く
 空袋撮影用の千歳飴
 錦秋の名残を連れて冬に入る
 行く秋にリース作る子もみじの手
 鳥居越しもみじも映える厳島
 露天の湯けぶる紅葉青き空
 薄の原ばかりにお日様照りにけり

あおはもゆ
 あおはもゆ
 柏の元学生
 笑昇
 中川 望
 中川 望
 中川 望
 野兎
 ノー・ボール
 秀夫
 まさえ
 わらしべ

短歌の部

なさけない読売ジャイアンツに比し
 阪神タイガースのりりしさよ
 ちょっと前古米古古米古古古米
 今や高値の新米うらめし
 朝散歩水音聞いて振り向けば
 カワセミ見事獲物をゲット
 仏壇に白寿の母と喜寿のわれ
 ともに拝むは家族のしあわせ
 ふるさとの恩師うつ蕎麦舌鼓
 話が絶えぬ一五の友
 朽ちし木は虫の寝床土のもと
 空気にもなりまた木にもなる
 強風に負けて倒れし老木の
 名残惜しそな傷跡哀れ

Q太郎

 笑昇

 中川 望

 ノー・ボール

 秀夫

 まさえ

 わらしべ

あとがき

今年は強烈で長い夏の影響を受け短めの秋となりました。自然の森に来られる方々のほっとした表情が印象に残っています。今回は句会・歌会に新たに2名の方が加わり、延べ9名の方々から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句11句、短歌6首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一步踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。次回は冬季（令和7年12月～令和8年2月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので投稿して下さい。お待ちしております。

新入会員紹介

上之蘭 篤さん



参加動機：自然が大事

趣味・好きなこと：ハイキング、旅行

貢献できそうなこと：公園整備、調査

取り組んでみたいこと・分野：植物の知識

ひとこと：よろしくお願い申し上げます。